

【編集】公益財団法人 寒風陶芸の里

■ 〒701- 4301 岡山県瀬戸内市牛窓町長浜 5092

■ TEL/FAX : 0869-34-5680

■ info@sabukaze.com

知りたい！ 寒風古窯跡群



寒風古窯跡群って？

どこにあるの？

岡山県の南東にある瀬戸内市と備前市の緩やかな山に、今から1,450年ほど前から約450年間にわたり、須恵器と呼ばれる焼き物を焼いた窯が約130基見つかっています。これを邑久古窯跡群と呼びます。この窯跡群の南端の瀬戸内市牛窓町長浜にあるのが寒風古窯跡群です。

だれが見つけたの？

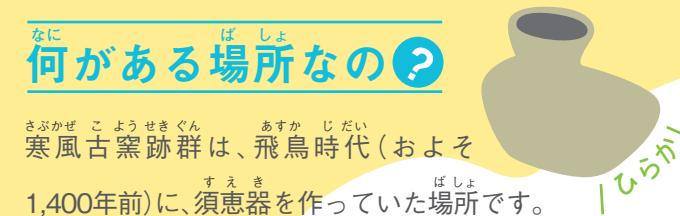
地元の郷土史家の時實黙水(1896～1993)さんが、昭和2年(1927)に完全な形のつまみのついた須恵器の杯蓋を拾ったことで、寒風の窯が発見されました。これをきっかけに、黙水さんは須恵器に興味を持ち、勉強して知識を深め、須恵器の採集を続けました。そして、調査の成果をまとめ、寒風の窯の大切さを訴えました。寒風古窯跡群が現在までしっかりと保存されてきたのは黙水さんの努力によるものです。

何がある場所なの？

寒風古窯跡群は、飛鳥時代(およそ1,400年前)に、須恵器を作っていた場所です。寒風には5か所の須恵器を焼いた窯や、作った工房、さらに、古墳(当時の墓)が見つかりました。この古墳には、須恵器を作った人たちのまとめ役だった人が葬られていると考えられます。

須恵器って？

須恵器は、古墳時代の中頃(およそ1,600年前)に朝鮮半島から伝えられた新しい技術のロクロ(回転台)や窯を用いて作られました。ロクロによって、大きさのそろった器をたくさん作れるようになり、窯を使い高い温度で焼くことによって、硬く締まった器を作ることができるようになりました。



どんな須恵器を焼いていたの？

寒風の窯で多く焼かれていたのは、食べ物や供え物を入れる杯、水やお酒などの液体を入れる甕です。ほかにも壺・平瓶・皿などが焼かれています。めずらしいものとして、筆で文字を書くために使う硯や、文字が刻まれたものもありました。須恵器のほかに、お寺の屋根に使われる飾り瓦の鶴尾、焼き物の棺桶の陶棺が作されました。

寒風のすごさって？

寒風の窯で焼かれた須恵器の一部は、奈良の都に税金として納められていました。都やお寺など特別な場所で使われる須恵器を作っていることから、国の影響を受けた窯だったのでしょう。黙水さんが採集したり、調査で見つけた須恵器は、備前地域(岡山県の南東部)の年代を計るものとして研究に使われています。昭和61年(1986)には、歴史を考える上で大切で価値のある場所として、国の史跡に指定されました。寒風を含む邑久古窯跡群で焼かれた須恵器は、時代とともに変化しながら、現在の備前焼へとつながっています。

